

(様式第1号)

平成30年度 第1回芦屋市環境審議会 会議録

日 時	平成30年11月27日(火) 10:00~12:00
場 所	芦屋市消防庁舎3階 多目的ホール
出席者	会 長 久 隆 浩 副 会 長 秋 本 久 美 子 委 員 伊 藤 明 子 委 員 井 上 尚 之 委 員 上 田 久 美 子 委 員 近 藤 博 幸 委 員 多 田 洋 子 委 員 美 濃 伸 之 委 員 中 島 健 一 委 員 福 井 美 奈 子 欠席委員 天王寺谷 祥一 欠席委員 長 城 紀 道 事 務 局 森 田 昭 弘 事 務 局 米 村 昌 純 事 務 局 岡 本 祐 子 事 務 局 寺 尾 祥 吾 行政職員 船 曳 純 子 行政職員 藪 田 循 一 行政職員 岡 本 周 三 行政職員 山 本 剛 史
事 務 局	環 境 課
会議の公開	■ 公 開
傍聴者数	1 名

1 会議次第

- (1) 開 会
- (2) 委嘱状の交付
- (3) 市長挨拶
- (4) 委員及び行政職員の紹介
- (5) 会 議
 - 1) 会長及び副会長の選出
 - 2) 会長及び副会長の就任挨拶

- 3) 委員出席状況の報告
- 4) 署名委員の指名
- 5) 議 事
 - ① 第3次芦屋市環境計画の進捗状況について
 - ② 第4次芦屋市環境保全率先実行計画の進捗状況について
- (6) その他
- (7) 閉 会

2 提出資料

会議次第

芦屋市環境審議会 委員名簿

資料1 第3次芦屋市環境計画実績及び自己評価報告書（平成29年度）

資料2 第4次芦屋市環境保全率先実行計画年次報告書（H29）及びエネルギー等使用量（平成30年度第1四半期）、（平成30年度第2四半期）

3 会議経過

開 会

事務局より開会挨拶及び提出資料確認

市長挨拶

委員及び行政職員紹介

市長退席

会 議

- (1) 会長及び副会長の選出

井上委員より久委員を会長に推薦する意見あり。

<全員異議なし>

近藤委員より秋本委員を副会長に推薦する意見あり。

<全員異議なし>

- (2) 会長及び副会長の就任挨拶

- (3) 委員出席状況の報告

事務局より、定数12名中、10名の出席につき会議成立と報告。

- (4) 署名委員の指名

芦屋市環境審議会規則第5条の2第2項に基づき、久会長より伊藤委員及び井上委員を署名委員に指名。

(5) 会議の公開・非公開の決定

出席委員の全会一致により公開を決定。また、会議録についても公開を決定。

また、この時点で傍聴希望者は1名。

出席委員の全会一致により傍聴希望者の入室を承認。

議 事

① 第3次芦屋市環境計画の進捗状況について

(久会長)

「事務局より説明求む」

(事務局より資料説明)

(久会長)

「前期とは報告書の体裁や評価方法等が変わっている。前期に引き続き委員を務めている方にはそれらの妥当性も含めて意見をいただきたい。さらに、基本目標④は次の議題である第4次芦屋市環境保全率先実行計画の進捗状況の報告にて詳細の説明があると考えられる。次の議題と絡めながら議論ができれば良いと考えるので、各位の意見を求めたい。

まず私より1点。基本目標①のうち「生き物の観察会の回数」に関して、市役所が主催せず、市民団体が開催している場合があるはずと考えるが、ここに挙げられている数字は市民団体主催分を含めた値なのか？」

(事務局)

「『NPO 法人さんびいす』の主催分を値に含めている」

(久会長)

「市民団体の力を借りる『協働』の形をとると、事務局側が全ての作業を頑張る必要がない。あしや市民活動センター（リードあしや）が市民団体の活動支援をしている。うまくタイアップしながら様々な市民団体の力を借りられれば、もっと回数が増えていくだろう。

目標に対する実績がかなり低いように見えるので、今後は『協働』も踏まえていただくと啓発の観点からも良いのではないかと期待している。うまく市民団体とタイアップしてもらいたい」

(中島委員)

「評価方法は以前から3段階だったのか？目標達成・非達成で点数をつける試みは今回初

めてか？」

(事務局)

「評価方法は3段階であり、点数をつける試みは今回初めてである」

(中島委員)

「では評価方法に関して1点。確かに数値を元に判定する評価方法も必要だが、担当者のやる気が出るような評価方法も必要だろう。この点でみると、『現状維持』はそれ自体が大変なものだ。少し進展したら評価されるのは良いとして、現状維持自体が非常に難しい業務がたくさんあるだろう。それらを『C』と評価するのは酷ではないだろうか。

さらにもう1点。基本目標③の総合評価は『A』となっている。確かに『無電柱化率の上昇』はすぐに達成困難なので『C』となっているが、『C』が合計2つある基本目標③の総合評価が『A』となる理由は何か？」

(事務局)

「点数評価方法として、1ページ目をご覧ください。具体的な評価点はページ中の各欄に記載したとおりである。基本目標③の各指標に関する評価点は平均16点であり、(総合評価『A』の基準平均である)15点を上回ったため、総合評価を『A』とした」

(中島委員)

「説明を受ければ評価方法は分かる。ただ、一般の方はどちらかと言えば評価方法の詳細よりもABCの評価に目が行くだろう。その際、『評価『C』が2つあるのに、なぜ総合評価が『A』となるのか?』と考えるのではないか？」

また先ほど述べたように、『現状維持』自体が非常に大変で数値に現れにくいものもあるだろう。それを『C』とするのは酷に思える」

(事務局)

「平成28年度の環境審議会にて出された『各評価基準の定義が曖昧である』旨の意見を踏まえ、点数化を試みることにした。中島委員ご指摘のとおり『現状維持』の困難なものに加え、指標ごとの難易度も違っていると幹事会等で意見が出ている。点数化や指標ごとの難易度付け等は現在模索中である」

(久会長)

「昨年度の審議会での意見を踏まえ、客観性を上げる努力をしてもらったところであるが、様々な課題が残っている状態である。委員各位の意見を踏まえ、来年度に向けてより分かりやすい指標を作っていければと思う。

現在、指標の上下や目標の達成状況で評価をしている。しかし、各基本目標は指標以外

の政策や事業も含んで成り立っており、指標のみでの評価には限界がある。難易度の高い問題ではあるが、客観性を上げつつ総合的な評価をする方法を共に試行錯誤していければよいと思う」

(上田委員)

「基本目標⑤のうち、「リデュース (Reduce)」にはごみ袋の削減も含まれ、またリサイクル運動やマイバッグ運動も絡んでくるのだろう。

(上田委員の属する)生活共同体コープこうべに関して言えば、芦屋市では組織率が91%であり、ほとんどの方がコープの組合員となっている。また、マイバッグ率も9割と非常に浸透している。マイバッグの浸透に伴う変化の1つとしてレジ袋の削減が考えられるが、レジ袋混入量の変化等は数値上分かるものなのか？」

(環境施設課)

「本市ではレジ袋を燃やすごみ扱いとしている。レジ袋のみを取り上げた項目はないが、燃やすごみのうち『合成樹脂類』(=レジ袋が含まれる項目)は約3割との数字がある。

(久会長)

「ごみの総量はすぐに分かるが、内訳が不明なことが多い。分別が簡単にいかない部分もあるので、良い方法があれば提案いただきたい。

ちなみに数年前から大阪の天神祭でごみをゼロにする運動を行っていて、今年はかなり減量した。市民ボランティア数十名が実行委員会を立ち上げ、様々な取組を行っている。

一昨年からはごみを徹底的に分別してそれぞれの重さを量り、次回重点的に行う内容を決めているが、これは相当な労力である。

この例のようなきめ細かい方法を取れるなら良いが、一度収集した後にそれぞれの内容を調べていくのは困難。できればごみとして捨てる量を減らす対策、いわゆる『入り口』で対策した方が、出された後に追跡するよりも楽なので、共にこの点も考えていきたいところである」

(福井委員)

「今回初めて審議会参加した身としては、資料を事前配布いただけるとありがたいが、可能か？」

(事務局)

「事前配布できるよう努めたい」

(美濃委員)

「評価全体で客観性を重視すると数値に目が行きがち。同じ数字の「1」であっても、新

たに1つ行う場合と、これまでの数を1つ増やす場合とは意味合いが異なる。難しいことは分かるが、先進的な取り組みに対する評価を質の評価として何とか組み込めないだろうか。

「客観性の評価も非常に大事ではあるが、新しいことに対する評価も次に繋げていく上で大事と考える」

(久会長)

「『施策の方向性』の欄があるので、質と量の両面から担当課にて成果が出たのか、従来どおりか等を評価し、最終的に基本目標に対する総合評価していけば良いかもしれない。これも踏まえて試行錯誤願いたい」

(井上委員)

「基本目標④について、電力調達から温室効果ガスの削減を目指すとする。また、芦屋市の事業に伴う温室効果ガスの排出源は電力使用によるものであり、節電及び排出係数の少ない電力を利用するとある。恐らく再生可能エネルギー由来の電力を取り入れているのだろう。

現状、『排出係数の少ない電力』と『電力料金』はトレードオフの関係にあるが、市の財政を圧迫しないかが気になる。値段と排出係数の兼ね合いをどう考えているのか？」

(編集者注：電力使用で温室効果ガスが生じると考える理由

電力は一般に、「発電」⇒「送電」⇒「消費」の経路をたどる。仮に「消費」部分で温室効果ガスが生じなくとも、「発電」及び「送電」部分で生じる場合がある。

したがってここでは、電力を消費する者が「発電」「送電」「消費」の各部分で生じる温室効果ガスも出したと考えている。

なお、この考え方は「地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）」及び関係法令の考え方に準じるものである）

(編集者注：排出係数と電力料金がトレードオフとなる背景

一般に、再生可能エネルギー由来の電力は「発電で生じる温室効果ガスが無いまたは少ない」等の理由により排出係数が低くなる傾向がある。

一方で、「発電規模が小さい」等の理由により電力料金が高くなる傾向がある）

(事務局)

「本市では電力自由化に伴い、『電力調達に係る環境配慮指針』（以下、「指針」という。）を定めている。この指針は環境省公表の排出係数等に準じるものであるが、この指

針にて環境面から業者を絞り、その後入札制としている」

(井上委員)

「排出係数の少ない業者に絞ってから指名入札等で相手を決めるというわけか」

(事務局)

「おっしゃるとおりである」

(井上委員)

「では、どの程度の価格差が生じているのか？例えば1 kWhあたりの値段は？」

(事務局)

「現状、3社が入札の指名相手となっているがそこまで差はない。ほぼ関西電力が落札している状況である」

(編集者注：電力供給業者数

「3社が入札の指名相手」と回答しているが、正しくは「5社」。以下同様)

(井上委員)

「主供給源が関西電力とのことだが、関西電力は排出係数が低いのか？」

(事務局)

「(指針を満たす程度には)低いと考えられる。また、財政面への圧迫は無いと考えられる」

(井上委員)

「ただ、排出係数が非常に低いところから供給を受けているわけではないのでは？例えば、太陽光のみで発電する業者の排出係数は非常に低くなるが、この手の業者からとっているわけではないと？」

(事務局)

「本市に登録のあった業者に排出係数の照会をかけている」

(井上委員)

「市から自主的に排出係数の低い業者を選んでいるわけではなく、登録者に対して？」

(事務局)

「おっしゃるとおりである」

(井上委員)

「仮に排出係数の低い業者が入ってくればこの評価も『ウルトラ A』と言えるかもしれないが、値段が上がる可能性もあるので、この兼ね合いが問題となる。

では次年度の方針はどう考えているのか。もっと排出係数の低い業者から供給を受ける等の方針か？」

(事務局)

「基準自体は環境省公表のものに合わせる形としたい」

(井上委員)

「環境省が公表している基準よりも低い業者を選んでいる？」

(事務局)

「おっしゃるとおりである。指針には環境省公表の基準に準じており、本市独自の上乗せはしていない。指針にて業者を絞り、その後指名競争入札としている」

(井上委員)

「排出係数の低さを優先するのではなく、指針を下回る業者を契約候補としていると。では、3社の選出方法は？」

(事務局)

「本市の契約検査課に登録された電力供給業者全てに照会をかけ、指針に適合する業者に対して指名競争入札している」

(久会長)

「指名相手は他にもいたが、応札が3社のみだった？」

(事務局)

「今年度指針に適合したのが3社であり、指名及び応札も3社であった。基準に適合した業者は全て指名相手としている」

(編集者注：応札業者数

「3社」と回答しているが、正しくは「1社」)

(久会長)

「これに関しては難しい面があるだろう。例えば関西電力は原子力の再稼働後に排出係数を下げてきているので」

(伊藤委員)

「いくつか聞きたい。1つ目は基本目標⑤のうち、『市民1人当たりの1日のごみ排出量』は年々下がっている。これ自体は非常に望ましいことだが、下がって理由は何か？」

2点目は基本目標③の『無電柱化』について。進んでいないように見えるが現状はどうなっているのか？」

3点目は基本目標①について。啓発活動や市民と自然のふれあい活動が主となっているが、植樹や保全といった自然環境に対する直接的な取り組みに関してはどうなっているのか？」

(環境施設課)

「基本目標⑤の『市民1人当たりの1日のごみ排出量』については確かに減少しているが、数値としては微減であり例年の数字に落ち着いている。ごみの減量化に関しては、行政側よりも排出者側の努力により成り立っている。行政側による地道な3Rの啓発の効果が、結果として徐々に表れてきていると考えている」

(事務局)

「基本目標①について、現在ここに上げているのは啓発面からの取り組みであり、イベント類に限定している。市内には様々な活動を行っている団体がいるため、今後盛り込んでいく必要はあると考えている。また次年度以降の指標をどうするかも合わせて考えていきたい。」

基本目標③の質問について確認だが、質問内容は『無電柱化率が12.4のまま変わっていない理由は何か？』との認識で良いか？」

(伊藤委員)

「せっかく良い取り組みであるのに進んでいないのはなぜかと気になった」

(事務局)

「当方も気になり、所管である道路課に問い合わせた。」

回答は『無電柱化はその性質上、工事が複数年度にわたる。工事完了まで無電柱化率に変化はない。今年度に工事完了予定の区間があり、この区間が完了すれば目標値を達成できる見込みである』とのことだった」

(編集者注：無電柱化の補足

工事期間中も周辺の施設や住宅への電力供給を保つため、地中の電線から電力供給可能になるまで電柱を撤去できない。したがって、無電柱化が進むのは工事完了時となる)

(久会長)

「長い距離にわたる工事が完了して初めてここの数字に反映されるとの認識で良いか？」

(事務局)

「そのようだ。本日時点ではまだ施工中とのこと」

(久会長)

「他市の事例に、緑被率や緑地面積を直接指標に掲げるものがある。豊中市ではこの指標を用いているが、一旦開発計画が立ち上がり事業化すると、開発予定地にあった緑地面積が減ってしまう。減った分を他で確保するのが難しく、減り続けていく結果となった。指標としては今一つではないかとの意見が出てくるので、この点が難しい。

私や井上委員の専門でいうと、芦屋市では緑の基本計画を策定しているので、緑に関しては指標に対する実績記録を取り続けている。環境計画として実績を追わずとも別の計画で行っている場合があるので、他の計画ともタイアップできれば良いのではないか。この点も計画見直しの際に考えていければよいと思う」

(事務局)

「他の計画も踏まえ、調整したい」

(福井委員)

「先ほど指標づくりの話が出ていたため気になった点を述べたい。今年は台風を始めとする自然災害が数多く発生した年であると記憶している。浜芦屋地区では多くの漂着ごみが確認され、問題となっている。いくら清掃活動を頑張っても追いつかない現状もあり、この手の取り組みにも目を向けていく必要があると考える。本市に限らず広域的な取り組みが必要だろう。

環境計画は計画期間が10年であり、どこかでこれらの広域的な課題にも目を向ける必要があるのではないか。別枠として考えることかもしれないが、もし現時点で何か考え等があれば教えてもらいたい」

(事務局)

「長期計画において、社会的情勢を取り入れる必要が出てくるだろう。指標自体は一旦決まれば長期間向き合うものとなるが、社会的情勢の変化に応じて単年度ごとの見直しや時

代遅れとなった指標の差し替えも検討していく必要があるだろう。漂着ごみに関してもそうだが、他の点についても考える必要があるだろう。ただ、現時点では詳細にお話しできるものがない」

(久会長)

「漂着ごみや大気の問題もそうだが、芦屋市単独で頑張っても周辺と足並みを揃えないと効果が出辛い。例えば兵庫県で環境に関する会議が開かれた際に、『〇〇に関して共に取り組みましょう』といった情報交換も大事であり、簡単にできることの1つだろう。逆に、芦屋市民が川や海にポイ捨てしことも漂着ごみを抑える効果につながる。発生源と漂着先がどのようにタイアップしていくかも考える必要があるだろう。

私からもう1点。これは中島委員のご指摘とも被ることだが、1ページ目を見てもらいたい。例えば基本目標①についてはパーセンのみを見れば半分しか進んでいないものの、『進んでいる』との評価から10点ついている。一方、基本目標④に関しては数値がほんの少しではあるが“下がっている”ので、評価が『C』となってしまう。

ここは目標と実績がかなり開いていても『B』、少し下がると『C』と評価されるので、取り組みを頑張っている側が評価に違和感を覚えても無理ないだろう。

目標と実績値との開き具合も評価に加えると、これらの齟齬も解消しやすいので、ぜひとも考えてもらいたい。

地方創生に関する『まち・ひと・しごと創生総合戦略』の例では、80%達成で『B』とするといった評価を行っていた。芦屋市の他の計画で取り入れている評価方法を横並びで見ると、転用可能な評価方法も見えてくると考えられるので、ぜひ見てもらいたい。

他には何かあるか。分かりやすくなった反面、実感と評価との間に齟齬が生じている部分もあるので、対応いただければと思う。

では、今の話とも連動すると思われるが、2つ目の議事について事務局より説明求む」

(事務局より説明)

(久会長)

「先ほど述べたとおり、基本目標④の詳細がここで報告された。事務局の説明に関して、何か質問等はあるか。

では私から1点質問したい。下水処理場のガス使用量が非常に少ないようだ。施設としてガスをあまり使わない仕様なのか、あるいは廃熱利用によりガス使用量を抑えているのか、実際はどうなっているか分かれば教えていただきたい」

(事務局)

「下水処理場は市内に2か所ある。そのうち若葉町にある芦屋下水処理場ではプロパンガスを用いているため、『都市ガス』の項目には計上していない」

(編集者注：都市ガスとプロパンガスの補足

都市ガスの主成分はメタンガスであり、プロパンガスとは使用時の発熱量や二酸化炭素の発生量等が異なる。したがって、それぞれを別枠で計上している)

(久会長)

「他の施設もそうだが、今後廃熱利用を進めていただけるとエネルギー使用量の削減につながるだろう。

東大阪市では面白い仕組みを作っている。市内の各市立施設で省エネに取り組み、省エネにより節約できたエネルギー代金を基金に回し、市民活動に利用してもらおう仕組みだ。市役所が省エネに取り組みれば取り組むほど市民活動に利用できる基金が増えるので、取り組みへのモチベーションを上げる意味でも非常に効果的と考えられる。この例も参考にされたい」

(中島委員)

「これは意見だが、現在 LED 化が必要とのことで、勧められているところである。一方、高齢者各位からは『LED が眩しすぎて、前を見づらく困っている。また (反射等で) 看板が見えないときもある。何とかならないか?』との意見を複数いただいている。

また、これは先日大学の先生から伺った話なのだが、発達に課題を持っていらっしゃる方々の中には LED そのものを受け入れられず、(LED 化した街灯や信号等があるため) 外を出歩くことすら苦痛に感じる方もいらっしゃるとのことだった。

我々からすれば LED は熱効率や明るさ、防犯上の点から非常に良いものであるが、設置場所には配慮が必要とお伝えしたい。今後ご意見が寄せられれば検討いただきたい」

(久会長)

「恐らく光の特性が絡むのだろう。LED は直線的な光を発するため従来の光源よりも拡散しづらい。これが光の“優しさ”につながっている。カバーで光を拡散するようにするなど、対策できるところがあるはずなので、中島委員より先ほどご指摘いただいた点も踏まえ、エネルギー削減以外の点にも配慮しつつ適切な照明を選んでいただけるとありがたい」

(井上委員)

「下水処理場でのエネルギーを使用に関して、群馬県伊勢崎市では伊勢崎浄化センターの下水処理施設にマイクロ水力発電装置を設け、段差 2m を利用した発電を行っている。発電量は 1 日あたり 2.6kW であり、生じた電力を施設の使用電力の一部に当てている。芦屋市でも導入できないか。これ自体の CO₂ 排出量はゼロだが、どうか？」

(事務局)

「勉強していきたい。設置場所等も考える必要があるので」

(井上委員)

「これ自体は上水道でも可能だ。マイクロ水力発電施設の設置ができれば、該当する水道局が使用するエネルギーは全てクリーンエネルギーになる」

(久会長)

「様々な対応が可能と考えられる。井上委員ご指摘の話を補足すると、流水のエネルギーを利用して発電するのがマイクロ水力発電なので、水が流れている場所にうまく設置できればさらに電力が取れるだろう。他に意見は無いか」

(上田委員)

「その他の施設のエネルギー使用量が突出して高い気がするが、主にどんな施設なのか？学校や病院は個別に項目があるのでここには入っていないと思うが…？」

(事務局)

「各集会所や交流センターのように、市民向けの施設が主に該当する」

(久会長)

「これは学生の論文指導でも指摘することだが、その他の数値が多いのは括りすぎを意味するので、もう少し分散して報告いただいた方が今の上田委員の質問内容により適切に答えることになるだろう。また一目見ただけで集会所等の実績が分かるので、次回以降の集計時では『その他』の括り方を分散させた方が良いと思う。他はあるか？」

(美濃委員)

「本庁舎や病院等の項目となっているが、これまでの統計に準じたカテゴリーを記載したとの認識で良いか？」

項目を見てみると、減らすのが非常に困難な項目と、まだ減らす余地のある項目とがあるようだ。この点についてはどのように見ているのか。この表で言えば病院は減らすのが非常に困難に思える。

また、実際は増えてもおかしくないのに取組みで抑えられている所があるかもしれない。このデータからは削減目標を並列で見ていると取れる」

(事務局)

「この項目は率先実行計画に基づくものなので、病院も項目として入っている。ただ、頭

打ちの施設や削減の余地がまだある施設は確かにある。事務局としては前向きに取り組んでもらえるように何か手を考えたい」

(美濃委員)

「削減できるところと削減しづらいところとでそれぞれ何を行っているのかといった次につながる情報提供をいただければ、この表に関する見方も変わってくるので」

(久会長)

「美濃委員がおっしゃるとおり、次の削減に向けてフィードバックできる形で集計いただければ、次につながるだろう。ちなみに豊中市は恐らく日本で一番すごい年次評価をしている。市役所内の課ごとにエネルギー使用量を集計し、施設所管課は自ら集計して事務局に報告する形を取っている。その際に各課が担当する事務量及び施設使用量も集計し、併せて報告する。この方法だと各課にすぐにフィードバックがかかり、次の削減に向けた意識向上にもつながっているようだ。

ある年では生涯学習課のエネルギー使用量が増大したため理由を尋ねたところ、生涯学習主催の夜間講座が増えたためと判明した。講座が増えることは喜ばしいことであるが、一方エネルギー使用量が増えるのは悩ましい。このように、細かく分けることで実態がより掴みやすい。集会所等では使用頻度が上がれば（地域として喜ばしいことだが）エネルギー使用量が増える。今後このあたりもフィードバックできるような集計を頂けると次年度では意見交換も行いやすい」

(多田委員)

「資料からは市役所としての電力削減努力が見て取れる。一方、削減された分を我々市民はどうしているのかも気になる。コミスクでは夜間の学校施設で活動をしている。水銀灯の費用等は折半しようといった話もあったが、我々市民としての削減努力はどうだったか、役所の削減分を我々が無駄遣いしたかもしれないと感じている。

電力に関して言えば、昨年度の増加する電力需要を賄うためとされる『神戸製鉄所火力発電所（仮称）設置計画』に関する審査手続中に、(株)神戸製鋼所の様々な問題が出てきた。昨日の毎日新聞に載っていたが、地球温暖化対策が必要な時に、CO₂排出量の多い日本に火力発電所が必要なのかといった話もある。

今後我々市民がどうしていけば良いのかも考えないといけない」

(編集者注：神戸製鉄所火力発電所（仮称）設置計画

神戸市灘区にある神戸製鉄所敷地内に、当時の(株)神戸製鋼所が石炭火力発電施設の設置を計画したもの。

本審議会の開催日現在、(株)神戸製鋼所より事業を引き継いだ(株)コベルコパワー神戸第二が建設工事を進めている)

(久会長)

「豊中市はうまく追いかけていると思う。今のお話に関しては、市民が使用するエネルギー量を CO₂排出量に換算できれば上手く反映していけると思う。ただ、現在は難易度が高いだろう。少し前であれば、芦屋市内のすべての家庭や施設は関西電力より電力を購入していたため電力使用量の把握は容易だったが、電力自由化により様々な電力事業者より購入が可能となった。結果として、全体像の把握が困難となった。

多田委員のお話は『需要マネジメント』と呼ばれるもの、すなわち使用量を減らすことで対策を取る方法に繋がる。これまでは需要に応じて供給量確保（発電所増設等）の方法を取ってきたが、今後は我々消費者側が電力使用量を抑えることで発電量を減らせる。このような方法も考えていくべきだろう。

海外では、例えばドイツは原子力発電を廃止したが、不足した電力供給をフランスの余剰電力やドイツ国内の石炭火力発電により確保している。原子力発電の廃止のみを見れば『ドイツはクリーンで進んでいる国なのでは？』と考えがちだが、実際は他の要素も複雑に絡んでいる。ニュースに加えて地域の要素を調べる必要もある」

(久会長)

「他に意見等はあるか。本日出された様々な意見を踏まえ、今後の改善等に取り組んでいただきたい。他に意見が無ければ本日の議事はすべて終了であるが、今後の審議会のあり方として、本日各位にはペットボトルが配られているがこれらは紙コップと共にどこかでごみとなりうる。また、紙資料も同様にどこかでごみとなりうるので、これらをどうするのかも考えていただきたい。

以前奈良県の環境審議会にて同様の案件が出た際に、『タブレットを用いてはどうか』と提案し、試験的に紙の無い審議会をさせていただいたことがある。また、近畿大学では会議のペーパーレス化を勧めている。会議の際はタブレット持参（タブレットが無い場合は事務局から貸与）としている。紙ごみ削減に加えて事務担当者の仕事量削減にも効果が出ている。さらに、郵送に伴い輸送トラック等から生じる CO₂排出量の削減にも寄与するので、ペーパーレス化は様々な点で環境に配慮した取り組みと思われる。

“環境” 審議会であるので、環境に配慮した審議会としたい」

(事務局)

「耳の痛い話であるが、ペットボトルの削減に関しては全庁的に課題として挙げられているので、足並みをそろえていきたい。タブレットに関しては、庁内会議では運用しており、ペーパーレス化を勧めている。台数制限や使用条件があるので、環境審議会での運用に関しても考えていきたい」

(久会長)

「全員分とはいかないまでも、持っている委員には使用してもらおうといった方法も取れるので、無理なく実施していただければ良いと考える」

(事務局)

「システムの仕様もあるため、可能な範囲で行いたい」

(久会長)

「宝塚市の共同の市民会議では『開催の案内を郵送する必要があるのか？メールで良いのでは？』との意見があり、メール受信が可能な方には郵送に代わりメールにて案内を行う方法に変えた。無理のないところから徐々に省エネや省ごみ等を進めていただければありがたい。

ちなみに豊中市では、コップはリサイクル可能なプラスチック製としており、必要な方は注いでいただく形を取っている。さて、事務局より連絡事項はあるか」

(事務局より連絡事項)

(閉会前に森田市民生活部長より挨拶)

以 上